

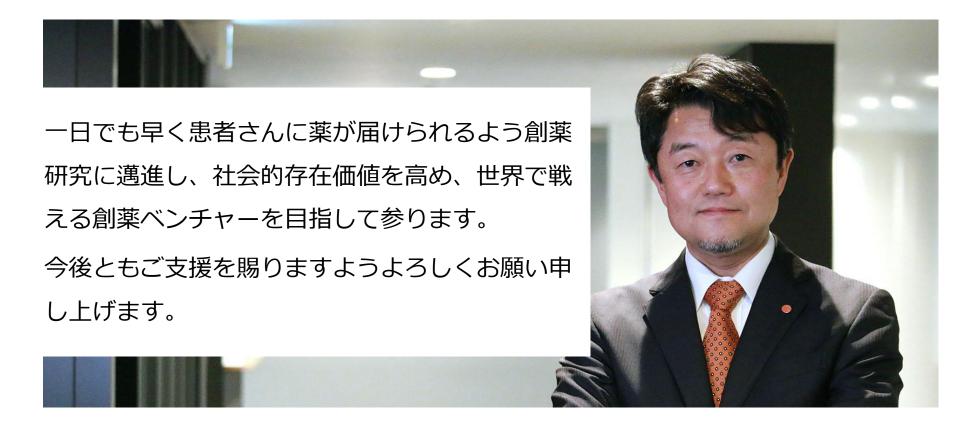


ラクオリア創薬株式会社

Copyright© 2021 RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved

新経営陣からのメッセージ





新任代表取締役候補者

渡邉 修造

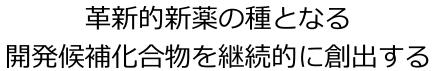
企業価値拡大を目指す新体制の成長戦略



世界で戦える

研究開発型バイオベンチャーへ成長するために







自社プログラムの初期臨床開発を 実施し将来の収益の最大化を図る

企業価値拡大を目指す新体制の成長プラン



- 1)イオンチャネル創薬力の強化
- 2 自社開発の実施
- 3 産学連携の強化
- 4 海外展開の加速
- 5 成功確率の向上



企業価値拡大を目指す新体制の成長プラン



1

イオンチャネル創薬力の強化

技術提携を通じてイオンチャネル創薬の技術基盤をさらに強化

- 構造生物学的アプローチによる技術基盤の拡充(クライオ電顕など)
- 新たなモダリティーへの取り組みを強化(抗体など)
- AIを活用した効率的な創薬プロセスの実現

2

自社開発の実施

将来の収益の最大化を図るため、自社プログラムから対象を絞って初期の臨床開発を実施

- グレリン受容体作動薬(RQ-00433412)は前臨床試験準備中
- ・テゴプラザンの日本開発は、HKイノエン社と協議を進めつつ、韓国での臨 床データを活用したあらゆる自社開発の可能性を模索

企業価値拡大を目指す新体制の成長プラン



3

産学連携の強化

中部圏での連携をさらに強化

• 4月から岐阜薬科大学とも連携し、中部地区からのシーズ探索をさらに強化

4

海外展開の加速

US拠点の活性化

カリフォルニア大学サンディエゴ校内に設置されている拠点の利を活かして、 海外の有望なシーズ探索や技術導入、さらに自社化合物の導出活動も実施

5

成功確率の向上

研究開発の成功確率の向上

トランスレーショナル・アドバイザリー・ボードを組織し外部専門家の意見を参考にターゲット選択や創薬・開発プロセスを最適化

戦略的なポートフォリオ構成の実現





成長戦略の実現に向けて最も重要なことは、

質の高い"新薬の種"を継続的に見出すこと。

プログラムのリスクとベネフィットを考え、バランスの取れたポートフォ リオを構成

自社研究開発 プログラム

イオンチャネルを中心に、将 来の自社開発も見据えたプロ グラム

共同研究プログラム(企業)

ラクオリアにない技術を持つ 企業と組むことで"新薬の種" を創出する可能性が拡大でき るプログラム

共同研究プログラム (アカデミア)

イオンチャネルに限定せず、 将来的にファースインクラス となりうる有望なターゲット に関するプログラム

ラクオリア創薬の歩みと今後の成長



第3フェーズ 2030年~ 世界的な 研究開発型創薬企業に

第2フェーズ 2021年~2029年 (現在)

第1フェーズ 2008年~2020年

変容・革新

- ト市品による安定したロイヤルティ収入
- 自社・共同研究品の導出による一時金、マイルストン収入
- 自社開発パイプラインの強化
- イオンチャネル創薬へのさらなる投資

事業の安定化

- tegoprazan, grapiprant, capromorelinの導出によるマイルストンおよびロイヤルティ収入
- 自社・共同研究品の旭化成ファーマ/Eli Lilly社、マルホ等への導出一時金、マイルストン収入
- イオンチャネル創薬の基盤構築

ラクオリア創薬の使命





将来の見通しに関する注意事項



- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。 リスクや不確実性は、特に製品(研究開発プログラムおよび化合物)に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる 「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。



ラクオリア創薬株式会社